

# ヤマモクス詩集 行き場のない 愛の劇場

**YAMAMOX**



## ひとりぼっちのバスガイド

---

右を向いても何も無い

左を向いても何も無い

話を聞く人もいない

それでも私バスガイド

うれしいことは何もない

楽しいことは何もない

悲しいことも何もない

それでも私バスガイド

旅が終わっても忘れないで私バスガイド

私ひとりぼっちバスガイド

## たまねぎ

---

思い出はタマネギのように  
涙をながし果てたあとで  
傷められて甘くなる  
そして甘ければ甘いほど  
腐りやすいんだ

ためらわずに引き金をひけ

あの人が生ける屍となる前に  
さあためらわずに引き金をひけ

それとも  
永遠に腐り続けていく？

## 浪費癖

---

あいかわらず浪費を続けている  
最後に真実が残る  
なんて幻想に違いない  
人生の本質は失うことにある  
失われていくことで生まれる空白  
それを悲しみとよんでも  
快感とよんでも構わない  
だってただの空白だからね

## 「知ってる」こと／「できる」こと／「する」こと

---

知っているからって  
できるわけじゃない

できるからって  
するわけじゃない

自分のいる場所を知っているからって  
どこかにいけるわけじゃない

君の場所にいけるからって  
いくわけじゃない

そんなことを思っていたって  
悲観的なわけじゃない

伏し目がちだった君を思い出す

## パノプティコン

---

この世界は  
逃げ場のない刑務所  
逃げたってどこへも行けやしない  
死にます？  
そういう手があったか  
でも住めば都で  
この刑務所にも  
愛着あるんだよね結構  
結局僕は  
幸せ者なわけだ  
詩なんか書くな！

## 冒険

---

出口のない洞窟に  
入る勇気はないはずなのに  
なぜ洞窟の前から  
離れることが出来ないのか？  
そこには何がある？  
知っているからこそ  
離れられないんだろ  
冒険なんてするもんじゃない  
おとなしくテレビみながら  
チョコレートほうばって  
消えていきたい  
もういつのまにか  
足を踏み入れてしまったようだ  
この洞窟は  
暗すぎる

## 1999年のピンボール

---

リセットは効きません

セーブもできません

あとからあとから

加わるダメージ

強制的な横スクロール

逃げ場所なんてありません

ボスキャラの連続

変わらぬ経験値

ヒットポイントは減るばかり

回復系のアイテムか

魔法はないのか？

そもそも目的はあるのか？

★

ひどいクソゲーを

つかまされたものです



## 友情

---

無理矢理僕をこじ開けようと  
同情マニアがバイオハザード  
心の奈落の底まで  
本当に付き合ってくれるのかい  
他人事だという共通理解のもと  
君のために涙を流そう  
ゾンビを撃つ時にさえ  
痛みを覚える僕の優しさを  
笑い飛ばし蹴飛ばすような  
そんな素敵な友情が欲しい

## 太陽は僕の

---

はい、その通りです

私、皆様を拒否しております

絶望に横たわって

片目を開けたまま

眠っております

私は動物園の珍獣ですが

ペットにしてくれても構いません

ただ病に犯されている故

死ぬ時にまで

囚われたくはありません

全ての獣医と

動物愛護家を抹殺せよ

そして

太陽に吠えろ

★

ワンワン

ニャンニャン

「愛」という記号の表す対象

ぼくの「脳」で図像を結ぶ「あなた」の表す記号対象

ぼくの「愛」というカテゴリーには

「あなた」だけが分類される

「あなた」はぼくのポストモダン

「あなた」はぼくの上位概念

ぼくの価値体系は「あなた」を基盤に形成されている

僕が存在していたから出会えたのか

出会えたからぼくが存在したのだ

愛ゆえに我あり？ノー

「あなた」ゆえに「愛」あり

ワーオ さっすが「東大生」

## きれいになりたい

---

致死量を超えるほど

愛しあう

僕たちは

月の裏にあるという

クリスタルの塔のように

美しい

何万光年を超える

光を浴びて

僕たちはいっそう輝き続ける

遥かな記憶

時空を相対化する

何もかも凍りつく

絶対零度の静止した時

オーロラの上で

互いの愛を再生産する

夢を見る

いつまでも

★

ベルガモットの涙

バニラエッセンスの愛液

## スパイ大作戦

---

二人が  
ほんの些細な幸せを  
守り通すためには  
相当の努力と  
細心の注意が必要です  
ミッション・インポシブル  
どんな絶体絶命ピンチでも  
持てる力を振り絞り  
乗り越えます  
僕は主人公  
あなたはヒロイン  
最高のラストシーンは  
スクリーンの先へと続く

## 汝求めるなかれ（無理）

---

僕はハリネズミ  
あなたに寄り添うためなら  
全てのハリを折るだろう  
そしてあなたもハリネズミ  
さあもっと深く  
あなたのハリを  
僕に突き刺して  
あなたを感じながら  
息絶えたい  
それはちょっと  
エゴイスト過ぎ？

## 罪と×

---

知らなかったんだ  
知らなかったんだ  
知らなかったんだから  
許して  
なんて話通用するか  
悪気はなかったんだ  
悪気はなかったんだ  
悪気はなかつたんだから  
許して  
なんて話通用するか  
君の事好きなんだ  
好きなんだ  
好きなんだから  
君も僕を好きになって  
なんて話  
通用するか  
よくある話さ

「消化不良って顔ね。」

「いや、過食症なのかも知れない。」

「あら、吐いたりしたの？」

「食べても食べても足りないんだ。」

「胃下垂かも知れないわね。」

「もっと欲しい、もっと欲しい。」

「それじゃナガシマシゲオの欲しい欲しい病よ。」

「願いが叶うかも知れない。」

「優勝？」

「いいや、ミラクルさ。」

「ばっかみたい。」



## 旅の途中

---

彼は考えた  
旅人は苦しい旅の途中で  
時に居心地のいいオアシスに寄る  
旅人の目的は居心地のいい場所を見つけることなのか  
それならなぜまた旅立つのか  
苦しい旅が目的なのか  
バカねえ、と彼女が言った  
どうしてそんな風に二者択一にしか考えられないの  
苦しい旅とひとときのオアシス  
その繰り返しの運動こそが  
旅人の目的なのよ  
ふーん、ありきたりの解答だな  
彼は言った  
より良いオアシスを求めて  
旅人はまた旅立つのかも知れないぜ  
上へさらに上へと  
欲望は無限に増大していく  
旅人ってわがままで贅沢なのね  
彼女は言った  
それじゃあなたも私じゃ満足できなくて  
より居心地の良いオアシスを求めて旅立つのね  
バカだなあ君は  
君は僕のオアシスじゃなくて  
僕の旅のパートナーだぜ  
なんなら僕が君のラクダになってもいい  
うまいこと言うわね  
それじゃ食料が底をついたら食べちゃうわよ  
望むところさ

## 不合格

---

「変わらないものなんてない」  
そんな当たり前の定理を  
理解できない劣等生を受け入れるほど  
我が校は甘くありません  
でも・・・  
君が君じゃなくなることなんて  
あるはずないじゃないか！

## 個人的に

---

君の横で

丸くなって眠ってしまうのって

クラシックのコンサートで

初めから終わりまで

眠ってしまうのと同じくらい

気持ちいいよ

なんちゃって

そういうのってダメ？

「許す」

誰にも邪魔させないぞ！

オチなし

## 良い子 悪い子 普通の子

---

マンガ 睡眠 チョコレート

音楽 ニコチン アルコール

それ以上に君に依存してしまったみたい

もう後には何もないよ

ごめんね

僕はそんな恐怖に耐えられないかもしれない

素直さは美德なんかじゃない！

## ゴールデン・ワーズ

---

わかりあえなくても同情できる

“なぜなら君が悲しいと僕が悲しいから”

ほら 突っ込むところだよ ここ

ほんとのことは口に出しちゃいけない

もしも言葉にしてしまったら

すぐに嘘になるんだ

“なんちゃって”ってね

なんちゃって

## センチメント

---

“辛いんだとても”  
なんて甘えたいけど甘えない  
と甘える  
ふたりで大好きな歌を口ずさむ  
他人のことなんて気にせずに  
“つてことは僕達は他人じゃない？”  
だけど君は僕じゃないし  
僕は君になれない  
とても簡単だけど  
だからって手を抜いてはいけない  
単純なものこそ奥が深いって  
バーテンダーが言った  
“つまりカクテルは  
マティーニに始まりマティーニに終わる  
ってことですよ”  
おかしいね  
幸せは  
うれしいような悲しいような  
気持ちよくて痛い  
“ねえ僕はいまどこにいるの？”  
僕の眼はどんどん視力が落ちているみたい  
もしも何も見えなくなるその瞬間が来たら  
最後は君の顔がみたい  
そばにいてくれる？  
センチメンタルだね  
うれしいような悲しいような顔をして

## 『クールの誕生』

---

あなたを失った  
言葉を失った  
記憶を失った  
夢を失った  
喜びを失った  
悲しみを失った  
失われる全てのものを  
僕は失った  
僕を失った  
つまりあなたは  
僕の過去であり  
僕の未来であり  
僕の永遠であり  
僕の全てであり  
僕だった  
1次元的に  
2次元的に  
3次元的に  
4次元的に  
不可避的に  
不可逆的に  
超越論的に  
神は死んだ  
必然的に  
世界は誕生するだろう  
いままさに  
ただここに  
あなたはいない  
僕はいない

## 内面化

---

心の揺れを鎮めるために

毎日毎回いいきかせる

あれは嘘だ／あれは嘘だ／あれは嘘だ

みんな嘘だ／みんな嘘だ／みんな嘘だ

恐くない／恐くない／恐くない

僕は幸せだ／僕は幸せだ／僕は幸せだ

正直者が必ずしも善人ではないように

悪人が誰でも強いわけではない

犯罪を犯す度

傷付く犯罪者の顔を

思い浮かべて欲しい

息苦しい



## ファンタジー

---

お菓子の家に火を放て！  
あまりにも綺麗だから  
お菓子の家に火を放て！  
甘くてとろけそうだから  
お菓子の家に火を放て！  
そして失われたあとに  
クリームよりも甘く  
カカオより苦い  
後悔と言う名の  
甘美を味わう

## 醒めない夢

---

夢から醒める

まだはっきりと覚えている

はずなのに薄れていく

君の顔 君の声

それでも覚えているのは

夢の中で夢中だったこと

★

夢から醒める

徐々にはっきりと見えてくる

僕がいまいる場所

何もない場所に浮かんでいる

それでも怖がらないよ

また眼を閉じて夢を見るんだ

★

夢から醒める

という夢からも眼を醒ませ！

## 世界の愛し方

---

距離を縮める以上に

距離を保つ方が

大変なんだよ

ね

## 告白

---

暖房のきかない部屋

冷めたコーヒー

音楽を聞きながら

震えが止まらない

僕の中にどうしようもない切なさの存在を感じ

そんな切なさに愛しさを感じ

生きる価値を見い出したりしたらダメ？

僕は

僕とあなたの間にある

と信じている

目には見えない繋がりを

支えにしている

## ピンボケ

---

かなわないことって  
そんなにつらい？  
つらいことって  
そんなに悪い？  
白と黒だけでは  
コントラストが強すぎるよ  
はやくこっちにおいで  
悲しくて嬉しくて  
切なくて楽しくて  
中間色にかこまれた  
緩やかで滑らかな世界  
見えそうで見えない  
行けそうで行けない  
確かなものなんて  
そんなにないよ  
ほら  
もう僕もあなたも  
滲んでる

## 希望の糸の綱渡り

---

僕のうしろには  
絶望と虚無だけが無限にひろがる  
僕のまえには  
等価値で無価値な点の集まり  
絶望と虚無から  
希望を紡ぎだし  
その希望の指し示すベクトルを  
唯一のものさしとして  
信じていたい

1999.08.07

---

骨の髄まで

幸せ120%

骨抜きにされたダメ人間だけど

それでも

怒りの感情は

失いたくない

怒りは

世界に向けるか

自分に向けるか

2 : 8で自分？

## 死守

---

自己正当化の力がある限り

僕は大丈夫

どんなに理性的になっても

そこだけは捨てちゃいけないよ

なぜ人は人なのか

自己正当化のおかげさ

自己保存より自己満足を



## 宇宙へ行くつもりじゃなかった

---

何も繋がってなんかいない

命綱なしの宇宙遊泳

みんな怖くないの？

みんななんて存在しない

ねえ だから

せめて君だけは

手を繋いでいて

口説き文句だよ

## シド&ナンシー

---

ベイビー君は最高だ

ベイビー僕も最高だ

比較不可能

絶対信仰

どんな闇も認めない

どんな嘘も敵じゃない

いいじゃない夢

いいじゃないキムタク

現実が残酷でも

真実は完璧だ

ベイビー僕たちは

空だって飛べるんだぜ

ひとりよがりのロッケンロール

イエーイ

## 上を向いて

---

自意識過剰で  
自意識過剰と思われたくない程  
気付かないふり  
わかりあえやしないという  
逃げ道の途中  
僕らは半分だけ微笑んでいる  
肯定できるのも  
否定できるのも  
自分のことだけ  
だって僕らは  
出会ってさえいないんだ  
幻さえも中途半端過ぎた僕らは  
また明日も  
上を向いて嘘をつく  
目を合わせないように  
偶然が産んだ  
思い込みの激しいラブライター  
迷惑だとしても  
君に届きますように

## トートロジー

---

もしもこの世に何かあるとしたら  
何かある

## レクイエム

---

この幻想の戦場で  
目的も知らぬナイーブな戦士達  
犠牲になったことにも気がつかず  
消滅していった数知れぬあなた達に  
レクイエムを贈りたい  
「いかがお過ごしですか？」  
知らぬが仏と言うけれど  
神も仏も僕の敵  
「っていうか神はもう死んだ」  
そうでしたねニーチェ先生  
僕は疲れているようです  
作戦を中止してはくれませんか？  
痛みを感じる暇もないほど  
戦士を襲う銃弾の嵐  
「ママ、怖いよう」  
振り返れば  
ママは薙刀を持って奮闘中  
僕が逃げてどうするんだ  
覚悟を決めた戦士は  
また前線へと向かっていく  
玉砕？

## 偽詩人

---

現実を  
言葉によって  
誤魔化す

ロマンティックに  
エロティックに  
センチメンタルに

そうでもしないと  
生きることも死ぬことも  
できないほどに不感症

“リアリティーがない”  
それだけがリアルで

自慰行為  
虚しさ  
ヒロイズム

偽詩人の言葉に  
魔力なんてない

トリックとトラップ  
そして手の届かない憧れ

前戯だけのセックス

“キャプテン、この船はどこにいるんですか？”  
“海の上だよ”

# REAL

---

人は現実に対して無力だって知ってるかい  
君がこの世に生まれてきたこと  
その現実に関して君は無力だ  
君の行動は君の意志で決定されているのかい  
そんな証拠はどこにもない  
君が今している行動だけが  
現実として存在する  
君が現実を作っているのではなく  
現実が君を作っていく  
ちなみに僕は人を殺した  
ねえ僕と友達になってくれるかい

## センチメンタル爆弾魔

---

忘れないでねドッカーン  
楽しかったねドッカーン  
夜になるのが恐いわさ  
そんな暗闇ぶっとばす  
俺のプラスチック爆弾  
君の名前をつけちゃった  
バイバイ



## 小沢健二に捧げる

---

あまりにもありふれた話だけれど、毎朝鏡の前でネクタイを選ぶ。ラッシュアワー。あふれんばかりの人波をかきわけて足早に会社へと向かう。缶コーヒーを買ってから自動ドアをくぐりぬけ、タイムカードを押す。ひととおり挨拶を済ませて席につき、ノートパソコンに電源を入れて、エクセルで表計算。昼休みはカレーライスで済ませ、残った時間でコーヒーを飲みながら一服する。オフィスは禁煙なので、時々会社の裏でタバコを吸っている。父親と同年代の上司の昔話を聞いたりもする。忙しい人もいればのんびりした人もいる。会社にヤクルトのお姉さんが来たら乳酸菌飲料を買う。飲みを誘われればついていき、ハメをはずしてズボンを脱いだりする。帰りの電車では文庫本を読む。家に帰る途中、歩くのが速くなった自分に気づく。帰ってくるとまず靴にブラシをかけ、殺菌消臭スプレーをかけてから部屋に戻る。スーツのシワをのぼしてハンガーにかけパンツにはアイロンをかける。メールチェックをしてから、アストラッド・ジルベルトのCDをかけて、ウイスキーを飲んでみたりする。そのうちに眠くなり一日が終る。ベッドにもぐって思う。ずいぶん離れてしまったんだね。いまさらながら戻れないあの頃を振り返る。ねえ、僕がビームスでスーツ買ったりするんだよ。タケオキクチの靴はいたりしてるんだよ。可笑しいでしょ。笑ってよ。踏んでよ。この道はどこへ続いているの？ どんどん遠くなるよ。「ブルーの用意はできてるの」だって？「切ないブルースが判ってきたみたい」だって？ ねえケンジ、悩めるときにも何が僕らを未来に連れてってくれるんだっけ？ まだ優しい手紙なんて書けないみたい。おやすみ。

## ロンリー論理

---

目的を与えられて、その目的を実現させる為に、最善の方法を選ぶような単純さでは、あまりにも複雑に絡み合ったこの世界の一部足り得ず、つまり「生きるとは何か」「幸せとは何か」という問いに答えることができないのは、問いの単純さに反して、この世界が複雑すぎることに起因している。というような当たり前の考察の行き着く場所は「語り得ないものについて語ることはできない」というこれまた語る必要もないトートロジーなのだが、逆説的に「語り得ない」ということだけは語ることも言える。なぜこのような不毛ともとれる文章を綴るのかといえば、そのような不毛さと戯れることにある種の快感が潜んでいるからであり、それは前戯だけが永遠に続く性行為である。永遠にオーガズムに達することができないからこそ永遠にその被虐的な快感に身を任せることができる。ロマンティック・マゾヒスティック・オナニー。略してR.M.O.。嗚呼、孤独な論理は果てしなくロンリー。なんちゃって。

## 忘却

---

実際のところ、パソコンに電源を入れ、ディスプレイの前に座ってみたものの、いつもの＜何でもできるし、何にもできない＞不安感に苛まされる。そもそも自己と他者の境界線、つまり僕の輪郭線を浮かび上がらせること、言い方を変えれば自己を構築することが、このサイトを設計思想だったはずなのだが、最近の僕は、そのただでさえ曖昧な輪郭線をさらに世界に滲ませてぼんやりとしている。めっきり人と会う機会も減ってしまったし、無理して会っても、そこには既に僕と貴方という関係は成り立たず、ただ時間だけが、その場を緩やかに形づくる。いま書いているこの言葉も、僕に向けられているわけでも、貴方に向けられているわけでもなく、曖昧なまま、書くという行為そのものを目的として進んでゆき、時計を見たときに時間が進んでいたという事実が、書かれたことを思い出させるだけだ。今が今である必要もないし、僕が僕である必要もない。僕は先月何をしていた？先週は？昨日は？今何をしている？貴方の名前は？最後に会ったのはいつ？ここまで文章を書くのに何本のタバコを吸った？みんな忘れちゃったよ。忘れちゃったよ。今朝見たはずの夢のようにね。

## 思い出

---

僕の思い出というのは、  
何も僕の奥深くのフォルダにだけしまいこまれているわけではない。  
それは、場所だったり、物だったり、人だったり、  
様々な形態の記憶媒体に書き込まれている。  
その風景に触れた途端、  
その場所に書き込まれたメモリーがフィードバックされ、  
僕の持つ思い出再生ソフトが起動される。  
風景は変わり、物はいつか壊れ、人もまた離れ会えなくなっていく。  
だからといって、マイドキュメントに思い出を保存するのは止めよう。  
僕のメモリーは今を処理するので精一杯だし、  
そして何より目の前で僕を待ち受ける、  
ハードボイルドな愛と感動の物語のために、  
ハードディスクの空き容量は最大限確保しなくちゃ。

そんな覚悟しながらも、  
甘えたこと言わせてもらえば、  
共有フォルダとなり得るような、  
変わらない風景や友人が、  
これからも存在していて欲しい。

## 自己紹介

---

さみしさのつれづれに、自己紹介文などしたためてみます。

★

僕は眠ることがなにより好きです。  
たぶん、好きなのではなく、眠気によってそう思わされているのです。  
眠気と言うのは他者であり、異物です。  
僕の意志に関わらず、僕に介入し、  
僕の限られた時間を奪っていく。  
人は性欲によって、実は自分というものは、  
自分の意志でコントロールできるものではないということを知ることがあるようですが、  
僕にとって、性欲以上にやっかいなのは、  
やはり眠気です。  
自分の意識が無意識のなかへと溶け込んでいく快楽。  
自分を放棄することによってしか得られない甘美な時間。  
それはたぶん深い海の底で  
イルカと戯れる「グラン・ブルー」のような感覚。

★

近代以降、社会は意識の上に構築されています。  
全てが理性というものを前提に存在し、  
言葉はそのシステムを強化する役割のみを許される。  
そんな不自由が生み出す矛盾は、  
狂気として時に溢れ出すが、  
近代はそれさえも医学・科学の名のもと  
理解可能なものとして、カテゴリー内に封じ込める。

★

僕はそんな近代に対するささやかな抵抗として、  
詩を書いているのです。

★

でも寝過ごして約束を守らなかったり、  
大事な時に眠ってしまう僕は、  
他人に信用されません。



YAMMOX

ヤマモクス詩集 行き場のない愛の劇場

<http://p.booklog.jp/book/63413>

著者 : yamamox

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yamamox/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/63413>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/63413>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社ブクログ